病院図書館　2015;35(1):45-46

ブレーク・タイム

# ちょっとこぼれ話　XLII

濵口　惠子

今回は、ポセイドーンに焦点を当ててみたいと思います。今まで、しばしばポセイドーンを登場させてきましたが、断片的な書き方でしかなく、ポセイドーンについて、まとめて書いたことはありませんでした。そこで、今回は、ポセイドーンにスポットライトを当てて書いてみようと、思い立ちました。今まで書いたことを振り返りつつ、ポセイドーン像を探っていきたいと思います。

ポセイドーンは、ウーラノスとガイアの子供であるクロノスとレアーの息子です。自分の子供に支配権を奪われるだろうとの預言が実現するのを恐れたクロノスに飲み込まれていましたが、怒ったレアーが隠れて生んで育てた末っ子のゼウスに、他の兄弟と共に助け出されます。その時起こった父親クロノスらティーターン族との戦争に、ゼウスらと共に戦って勝利し、ゼウスを始めとするオリュンポスの神々の地位が確立します。

支配権を分ける籤で、ゼウスには天界、ハーデースには冥界が、ポセイドーンには海が当たりました。ポセイドーンは、海だけでなく、あらゆる泉の支配者で、大地の神、世界を揺さぶるような巨大な地震を起こす神であり、地上をも支配すると考えられていました。最高神であるゼウスに敵(かな)わずとも、匹敵するぐらいの力を持っていたと思われます。

ポセイドーンを象徴する物は、ティーターン族から贈られた三叉戟(さんさほこ)です。これを使って、いともたやすく嵐や津波を引き起こしたり、大陸をも水没させることができました。また、馬とも密接な関係があり、馬を創り出して馬を御する術を人間に教えたとされ、競馬の守護神でもありました。

ポセイドーンは、エウボイア島のアイガイの沖の海底にある、燦然と輝く黄金の宮殿に住んでいると考えられています。そこで飼っている青銅の蹄と黄金の鬣(たてがみ)を持つ馬が引く戦車に乗り、三叉戟を手に、海の怪物達を従え、海を馳せるのが常でした。

ポセイドーンは、海の老神ネーレウスがオーケアノスの娘ドーリスとの間に設けた50人の娘達ネーレーイデスの1人、女神テティスを妻にと望みましたが、テティスから生まれる子供は父親より偉大になるだろうと預言されていたので、テティスをあきらめます。

そこで、ポセイドーンは、テティスの姉妹のアムピトリーテーに求婚します。アムピトリーテーは、ポセイドーンを嫌って逃げ回り、オーケアノスの宮殿に隠れてしまいますが、ポセイドーンが海豚に探させたために、とうとう発見されてしまいます。アムピトリーテーは、ポセイドーンの妻になり、トリートーン、ベンテシキューメー、ロデーの3人の子供を儲けます。トリートーンは、下半身は魚、上半身は人間の姿をしています。ロデーは、ポセイドーンとアプロディーテーとの子供という説もあります。ロデーは、後、ロドス島で崇拝されている太陽神ヘーリオスの妻となります。海豚は、アムピトリーテーを見つけた功績を認められ、天空に上げられて、いるか座となりました。

メドゥーサは、もとは美しい少女で、美しい

はまぐち　けいこ：高槻赤十字病院　用度施設課

長髪を誇りにしていました。ポセイドーンは、その美しさに惹かれ、関係を持つようになります。ある時、2人は、あろうことか、処女女神アテーナーの神殿で交わってしまったのです。アテーナーは、激しく怒りますが、強大な力を持つ大神ポセイドーンには、なす術もありません。怒りは、メドゥーサに向けられます。彼女は、二目と見られない醜い姿にされ、美しかった長髪も蛇に変えられてしまいました。後に、ゴルゴーン退治に来たペルセウスに首をはねられ、首からほとばしった血から有翼の天馬ペーガサスが生まれます。メドゥーサの首は、女神アテーナーの楯アイギスに埋め込まれました。

ミーノータウロス退治のため、アテーナイからクレータに渡ったテーセウスも、アテーナイ王アイゲウスの息子ではなく、母親アイトラーが海神ポセイドーンと交わってできた子供という説もあります。

ギリシア神話の男神達は、女性関係が華やかですが、ポセイドーンもご多分に漏れず、そしてゼウスに負けず劣らず、ロマンスに事欠きません。ポセイドーンの恋人を数えると切りがなく、何と優に80人を超えるようです。その子供の数たるや、推して知るべしです。

大神ポセイドーンは、怒らせるととても怖い神でもありました。

エチオピアの王ケーペウスの妻カッシオペイアは、自分がネーレーイデスよりも美しいと自慢してポセイドーンの怒りを買い、ポセイドーンが起こした洪水で国土を荒らされた上に、娘アンドロメダーを海の怪物の犠牲（いけにえ）に捧げる羽目になりました。

トロイア戦争のギリシア方の英雄オデュッセウスは、故郷イタケー島に帰る途中、一つ眼の巨人キュクロープスの島で、キュクロープスの1人ポリュペーモスの眼を杭で突き刺して逃げました。ところが、このキュクロープスがポセイドーンの子供だったために、ポセイドーンを激怒させてしまい、ことごとく帰郷を阻まれることになりました。

クレータの王ミーノースは、ポセイドーンとの約束を反故にしたので、彼の逆鱗に触れ、妻のパーシパエーが牡牛に対して欲情を起こすように仕向けられます。パーシパエーは、ポセイドーンが送って来た牡牛に欲情し、その結果、生まれたのがミーノータウロスでした。

さて、ポセイドーンは、ギリシアの諸都市が成立して、神々がその都市の主神の座を争った際、常に敗れています。

アテーナイの領有権を巡って、アテーナーと争った時、三叉戟で地面を打ち、泉を湧き出させたポセイドーンに対し、女神アテーナーは、オリーブの樹を出し、勝利しました。怒ったポセイドーンは、エレウシースの野に洪水を起こしましたが、ゼウスが仲裁に入って、アテーナイのアクロポリスにアテーナーの神殿を、アテーナイの南南東69 kmにあるスーニオン岬にポセイドーンの神殿を建てて、2人は和解しました。スーニオン岬は、ホメーロスの「オデュッセイア」の第3巻で、ぶどう酒色の海原と謳われている、夕陽の美しい所です。

アルゴスでは、女神ヘーラーと争って負け、この地の泉という泉を枯れさせました。アルゴス王ダナオスの娘アミューモーネーが彼の恋人になったので、怒りは収まり、災いが止まりました。アミューモーネーは、ポセイドーンとの間に、後にナウプリア市の創始者となるナウプリオスを儲けています。

コリントスではヘーリオスと争い、アイギーナをゼウスと、ナクソスをディオニューソスと争って敗れています。なぜか、いつも運が悪いようです。

なお、古代ギリシア四大競技会の1つであるコリントスのイストミア祭は、テーセウスが、ポセイドーンに捧げて開いたとされています。

ポセイドーンは、ゼウスと同じく、常に髭を生やした中年の姿で描かれています。絵画や彫刻等の美術作品で、髭を生やした壮年男性が三叉戟を持っていたら、それは、間違いなくポセイドーンです。